

12 令和7年度入学生 キャリア教育全体計画書

1 目 標

- 卒業後の進路を選択し、自らの人生を拓くために、必要な能力や態度を育て、社会的・職業的に自立した人間の育成を図る。

2 現状・課題

下記「3」に設定した「つきたい力」を獲得するため、指導方針に沿って「4」の内容を実践し、キャリア教育が実りあるものとなるよう努力している。課題としては、計画実践全体が生徒にとって一方的なもの、受け身的なものにならずに、生徒自身の力となり、現実の場面で活用する力にできるかという点である。長期的な視点を持ち、記録として残し再確認して行くことが有効であると考え。この点については、今後のキャリアパスポートへの取り組みが期待される。

3 つきたい力

【基礎的・汎用的能力】人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を含める。

- a 進路選択を適確に、責任を持って行える自己理解・情報収集・処理・計画実行の能力
- b 働くことへの目的意識・責任感など、職業観・勤労観の確立
- c 社会的・職業的自立に必要な基礎力【基礎的・汎用的能力】
 - c1 コミュニケーション力 c2 自他の理解力 c3 課題探究力 c4 キャリアプランニング力
- d 上級学校進学後に必要な学力

4 内 容

指導項目	指導方針〈対応する項目〉
①自己の在り方、生き方を考え、将来設計と社会参画の意識を醸成する。	ア 基本的生活習慣の確立と基礎学力の充実を図る。〈①②〉
②仕事や社会で必要となる力(基礎的・汎用的能力)を育む。	イ アジアアフリカ難民支援運動や文化祭などの各取組の繋がりを意識し、学校生活全体をキャリア教育の場と捉え、3年間の系統的な指導を行う。〈①②③⑤⑥⑦〉
③様々な学習や体験を通して勤労観、職業観の形成を促し、将来の職業を考える。	ウ 講演会や企業視察は事前・事後指導を実施し、身についた力(基礎的・汎用的能力)の確認をする。〈②③〉
④卒業後の進路を選択し、実現をめざす。	エ 知識、技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランス、言語活動の充実を図る。学んでいることと社会のつながりを意識させる。〈②④〉
⑤新しい環境に適応するとともに他者との望ましい人間関係を構築する。	オ 家庭や地域社会、産業界等と連携した体験活動を推進する。〈②③〉
⑥様々な情報を収集し、進路選択の幅を広げる。	カ 年に2度授業評価(生徒)を行い、以後の取り組みや指導に還元する。〈④⑦〉
⑦他者との関わりを通し、学ぶことの意義を見出す。また、上級学校に進学するための学力を養う。	

指導場面等	指導計画・キャリア教育の視点等〈実施学年〉
教科の授業	・言語活動を重視した思考力、判断力、表現力を育成するための双方向性の授業を導入し、意見交換、課題の発見・解決、プレゼンテーション等の活動を導入 ・内容を身近な事や物と関連づけることによる、興味・関心の向上と、理解を深める授業展開
総合的な探究の時間	・全校登山とアジアアフリカ難民支援運動の二大学校行事を通じて、地域や社会の課題の解決に必要な知識及び技能の取得 ・協働的な探究活動を通じて、地域や社会の魅力や特徴に対する理解を深めるとともに、社会とのかかわり方についての学習
特別活動	・科目選択、進路の研究と選択〈1～2年〉
校外の体験活動 (就業体験活動等)	・看護医療体験〈1～3年〉 ・進路学習〈1～3年〉オープンキャンパス参加〈1～3年〉、進学相談会参加〈1～3年〉
地域や産業界等との連携	・産業事情視察の実施(企業見学)〈2学年希望者〉 ・「キャリアチャレンジプログラム」「ジョブ・シャドウイング」「一日看護体験」等の活用
評価	・生徒、教員アンケート、でキャリア教育の取り組みを評価 ・県教委の実施する「生徒意識調査」の活用
中学校との連携 (指導の継続性)	・高校入学までのキャリア形成の振り返り(入学時) ・大町市派遣交流支援員による支援と中高交流会
校内の推進体制	・進路係内にキャリア教育担当を設置 ・学年担当者とキャリア教育担当者は緊密に連携

キャリア・パスポートの取り組み	・中学までに蓄積されてきたポートフォリオの再確認、高校生活を展望 ・アジアアフリカ難民支援活動、全校登山など諸活動のレポートを蓄積 ・各種の資格取得やクラブ活動の実績の記録、進路活動での活用
-----------------	---

5 学年別指導計画

	1 年	2 年	3 年
目 標	○「みつめる」 自己及び他者の個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動する力を身につける。 ○自ら学習意欲を喚起し、具体的な目標を持って学習する姿勢を育む。	○「ひろげる」 自己の在り方、生き方を探る。 ○「働く」ことに対する認識を深め、自分の進路について研究していく。 ○進路決定に必要な情報の処理。	○「いどむ」 進路実現をめざす。 ○自身の将来の志しをふまえ、進路目標の再認識をする。
主 な 取 組	○登山研修・全校登山 ○アジアアフリカ難民支援運動学習 ○学習ガイド	○アジアアフリカ難民支援運動学習 ○研修旅行及び事前事後学習 ○進路学習、大学授業体験 ○産業事情視察及び、事前事後学習	○進路実現までの具体的な目標設定、計画及び課題の明確化 ○アジアアフリカ難民支援運動学習
評 価	・生徒意識調査(県教委) ・授業アンケート	・生徒意識調査(県教委) ・授業アンケート	・生徒意識調査(県教委) ・授業アンケート

*就業体験活動、校外活動は□で囲む

	教 科	総合的な探究の時間	特別活動	その他(面接・評価等)
1 年	4 シラバスを活用し、年間指導計画と学習方法等の授業説明	探究の進め方、テーマ選択	高校生活オリエンテーション	生活意識調査
	5 アジアアフリカに関連した学習内容	ミニ探究 アジアアフリカ難民支援運動学習	学年進路学習 アジア研修講演会	生徒面談
	6 全校登山に関連した話題提供	登山研修(大田市山岳博物館視察)	職業/学部学科別研究	進路希望調査
	7 「植生と遷移(湿原の成立)」 (理数生物学教科)	学習分野外実習 全校登山	2年次科目選択(ガイダンス)	三者面談会
	夏休み		オープンキャンパス(希望者) 看護体験・福祉体験 科目研究	生徒面談
	8			土曜補習開始
	9	課題研究講演		授業アンケート 生徒面談
2 年	10			生徒面談
	11 総合教育センター実習(学教科)			生徒意識調査(県教委)
	12			授業アンケート
	1	学年発表会	小論文指導	年間評価、次年度の計画
	2			
	3 春休み	レポート提出	進路学習 系統分野別ガイダンス 小論文指導	
3 年	4 シラバスを活用し、年間指導計画と学習方法等の授業説明	探究テーマ設定	進路希望調査	三者面談会
	5	総合的な探究の時間	進路ガイダンス	授業アンケート
	6 アジアアフリカに関連した教科の学習内容	プレゼンテーション①	産業事情視察(希望者) 学年進路学習 アジアアフリカ難民支援運動学習 全校登山 事前事後学習	三者面談会
	7 全校登山に関連した話題提供	実験 調査	3年次科目選択(ガイダンス)	授業アンケート
	夏休み	情報収集活動	信州大学研究 オープンキャンパス	夏季補習
	8	中間まとめ		土曜補習開始
	9			
3 年	10		小論文指導	生徒面談
	11	プレゼンテーション② 発表の準備	研修旅行 事前事後学習	保護者懇談会
	12			生徒意識調査(県教委)
	1	プレゼンテーション③	学年進路学習	授業アンケート
	2 課題研究発表会(学教科)	校内発表会 ポスターセッション	志願理由書作成 (進路ガイダンス)	年間評価
	3 春休み	論文作成		
3 年	4 シラバスを活用し、年間指導計画と学習方法等の授業説明		アジア研修講演会	生徒面談
	5		学年進路学習	土曜補習開始
	6 全校登山に関連した話題提供		小論文指導、志願理由書指導 アジアアフリカ難民支援運動学習	三者面談会、授業アンケート
	7 アジアアフリカに関連した学習内容			夏期休業補習授業
	8 夏休み		信州大学研究	
	9		志願理由書作成、面接練習	
	10			生徒面談
3 年	11			生徒意識調査(県教委)
	12			授業アンケート
			高校生活のまとめ	